

インターンシップ制度の先駆け

中村 雅彦
MASAHIKO NAKAMURA
山口県立山口農業高等学校
進路指導部 教諭



山口県立山口農業高等学校 / 農業土木科

山口農業高等学校では農業土木科二年生全員が、夏休みの間に四日間のインターンシップ研修を経験します。

実際に研修現場を見せてもらいました。山口市の株式会社林建設で研修していたのは岩本弘和君。暑い中、汗だくで現場の手伝いをしています。話を聞くと「意外な経験ができるし、授業と『本物』がかなり違うことも感じました。四日間は短い、もっと時間が欲しい。楽しいです」と汗をふきながら笑って答えてくれました。現場で指導されていた林建設・光弘忠男課長にもお聞きしました。「我が社では四年前から生徒さんを預かっていきます。意外に(笑)皆さん真面目ですね」と言い、「この経験で、建設業に対して、変な先



岩本くんを指導する林建設・光弘課長

入観が無くなり若い人が入ってくるのは私たちもありがたいですね」と言われました。視察に来られていた山口農高の大津久美先生が言われるには、「授業の中の実験、実習との違いに驚いたり、工事に少しでも携わっ



視察に来た大津先生と岩本くん

た喜びを感じたりと生徒には大きな意味があると思います。自分の将来を探る指針となり、社会の厳しい勉強だと思えます」とのことです。

さて、後日、詳しく話を伺うために学校に担当の中村雅彦先生を訪ねました。

学校で学べないことや体験ができる。最先端の技術や機器を知ることができる。など、インターンシップ制度の利点をあげられました。「我が校では、文部省が始めるより前の六年前から、建設業協会の協力での制度を開始しています。現場へ生徒を出すことについては、危険性の問題はやはり考えます。ただ、文部省の態勢も整いつつあり、保険制度も設けられています。もちろん、各会社とも安全管理はしっかりできていると思います。研修前の学校での指導は、言葉遣いをきちんとすること、はっきりした態度で接すること。この二つを注意すること以外は特にやりません。この制度は生徒たちにも評判はい

男性に負けたくない！でここまでできました

け・ん・せ・じ
WOMAN

豊田 恵美子さん

EMIKO TOYODA ●株式会社コプロス(下関市)・第一工部勤務
●昭和31年生、島根県津和野町出身、県立山口高等学校卒業●O型、みずがめ座



今回は女性で、すでにベテラン。現場監督として、まさに「男に負けない」働きをしている豊田恵美子さんです。

この仕事に入るきっかけは、10年くらい前に、アルバイトに出たんです。その時から、建設業の仕事が気に入り、続けました。そこで機械を扱う人達が、自分達のことをちゃんと相手にしてくれないのがやしくて重機の運転免許を取り、この会社に入社しました。よほど自分に合ってたんでしょう。仕事は毎日楽しく、面白かった。でも、一緒に働いている男



性には負けたくないという気持ち、ますます強くなりました。確かに、体力、気力がある男の仕事かもしれないが、男にできない、女だからできることが必ずあるはずと思いつくことにしました。そして機械を動かすことではあきたらず『人や現場を動かす人』になりたいと思うようになり、こうして頑張ってきました。今は現場工事管理者、つ

まり現場監督として、ここの現場を任されています。仕事の楽しさは、全てを自分の考えた方法や計算で仕事を進め、完成させた時の快感ですね。思わず「やったー！」って叫びたくなります。つらいことはやっぱり「女」としてしか見られない時です。でも、自分で辞めたいと思ったことはありません。負けず嫌いで「男に負けるか！」と思っていることがパワー

の源ですよ。将来の夢は会社を作ることです。すでに息子も同じ仕事をしていますから、二人でやろうと考えてます。女性の皆さんへのアドバイスは「チャレンジ精神を持ってあたれ!」。本気であれば男の世界も面白いですよ。社会や業界にお願いしたいことは、女性にもっと門戸を広げて欲しいということですね。



現場でみんなそろって

ムに生徒たちは驚嘆の声をあげながらバスを降ります。干拓地の歴史、山口きらら博のこと、博覧会後はスポーツ交流広場や自然とふれあう場になるなどの説明を聞きました。そして後は汗をふきふき整地された会場を見学しました。そんな生徒の皆さんに話を聞いてみました。「大きいですね。すごいと思います。でも、自分ももっと大きく、高い物を作るのが夢です」とはつきり。「今は授業も結構おもしろいです」の言葉に、周囲の何人かが「ウン、ウン」と相づちを打っていました。「将来は土木建設業が希望です」



引率の森本先生

と答えてくれる生徒の皆さんでした。唯一人の女生徒にも聞いてみました。「女性一人というのは、少しやりにくい所もありますが、みんな普通に相手してくれるので、そんなに気にならなくなりました。家が建設業をやっているのので後を継ごうと思っています」と笑顔で答えてくれました。引率の森本弘正先生は「このような機会はありません。ありがとうございます。土木の仕事は途中を見ることがなかなか刺激になります。生徒にはいい生徒もうれしいでしょう」と先生も楽しそうでした。

県立徳山工業高等学校は、機械科、情報技術科、化学工業科、そして土木科があります。「建設関係への就職希望が当然多い。ただ、最近土木に対するマイナスイメージが生徒の中になくなりつつあるのはうれしいです」と言う森本先生。「あと願うことは、これからの時代、もっと女生徒が増えて欲しいですね」という言葉も聞かれました。



校舎全景

教育現場訪問 ②

青空にそびえる 巨大ドームに驚きの声

まだ六月。だけど真っ青な空とキラキラの太陽。すでに真夏気分。平成十二年六月十四日。土木科一年生三九名がバスで見学に来たのは、阿知須干拓地。平成十三年七月から九月まで開催される「山口きらら博」の会場現場、阿知須町きらら浜です。バスの窓いっぱい大きく迫ってくるのは鉄の骨組みと高く積まれた足場。建設中のドーム



建設中のドームと月の海を見学



現場での作業風景

村先生。「もちろん、全員が『よかった』と思う訳ではありません。この仕事に対しての自分の思い違いに気づく生徒もいます。早めに本人が適正に気づくこともよいことだと考えます。プラス面の多いことを考えれば、この制度は今後もやっていこうと思っています」とのことでした。

現場企業、生徒、学校と三者の話を伺って思うことは、インターンシップ制度は、建設業界だけではなく、もっと広い職種にも必要ではないかという気がします。



校舎全景